

基準地番号	提出先	所属分科会名	業者名	株式会社エスエー不動産鑑定
東村山（都） -8	東京都	多摩第4	氏名	不動産鑑定士 佐藤 耕一
鑑定評価額	36,300,000 円		1㎡当たりの価格	178,000 円／㎡

## 1 基本的事項

(1) 価格時点	令和6年7月1日	(4) 鑑定評価日	令和6年7月4日	(6) 路線価	[令和 6年 1月]	140,000 円/㎡
(2) 実地調査日	令和6年6月28日	(5) 価格の種類	正常価格		路線価又は倍率	
(3) 鑑定評価の条件	更地としての鑑定評価				倍率種別	

## 2 鑑定評価額の決定の理由の要旨

(1) 基準地	①所在地及び地番並びに「住居表示」等 東村山市諏訪町一丁目3番3						②地積 (㎡) ( 204 )		⑨法令上の規制等				
	③形状		④敷地の利用の現況		⑤周辺の土地の利用の状況		⑥接面道路の状況		⑦供給処理施設状況				
	1:1.2		住宅 L S 2		中小規模一般住宅が多い住宅地域		北東4m市道		水道、下水 東村山 1.5km				
(2) 近隣地域	①範囲		東 40 m、西 60 m、南 60 m、北 60 m				②標準的使用		低層住宅地				
	③標準的画地の形状等		間口 約 13.0 m、奥行 約 16.0 m、規模 200 ㎡程度、形状 長方形										
	④地域的特性		特記事項 特にない			街路 基準方位北4m市道		交通施設 東村山駅北方 1.5km		法令規制 1低専(50,100)準防高度地区1種(その他)(60,100)			
	⑤地域要因の将来予測		熟成した戸建住宅地域で、地域要因に特段の変動要因も認められないことから、当分の間現状のまま推移していくものと予測する。										
(3) 最も有効使用の判定		標準的使用と同じ低層住宅地						(4) 対象基準地の個別的要因		方位 +1.0			
(5) 鑑定評価の手法の適用		取引事例比較法		比準価格 178,000 円/㎡									
		収益還元法		収益価格 68,300 円/㎡									
		原価法		積算価格 / 円/㎡									
		開発法		開発法による価格 / 円/㎡									
(6) 市場の特性		同一需給圏は、東村山市及び隣接市内の西武線各沿線、J R 武蔵野線沿線の住宅地域である。主たる需要者は、都心や多摩中心部への通勤者及び地域に地縁を有する住宅取得希望者で、一次取得者が中心である。都心部の地価の上昇、在宅ワークの広がり等から戸建住宅の需要は堅調で、地価は上昇傾向で推移している。需要の中心となる価格帯は、新築戸建住宅で、4, 5 0 0 万円前後である。											
(7) 試算価格の調整・検証及び鑑定評価額の決定の理由		近隣地域は、アパートも散見されるが、戸建住宅を中心とした住宅地域で、不動産市場では自用目的の取引が中心で、収益性を追求する取引は僅少である。従って、土地価格は、主として居住の快適性、利便性等に着目して形成されており、収益性が価格形成に及ぼす影響は極めて僅少である。よって、指定基準地及び周辺公示地との検討を踏まえ、実証的な比準価格を採用し、鑑定評価額を上記のとおり決定した。											
(8) 規準とした公示価格	① <input type="checkbox"/> 代表標準地 <input checked="" type="checkbox"/> 標準地				②時点修正		③標準化補正	④地域要因の比較	⑤個別的要因の比較	⑥対象基準地の規準価格 (円/㎡)	⑦内訳	街路 0.0	地域要因 +2.0
	標準地番号 東村山 -21				[ 102.0 ]		100	100	[ 101.0 ]	178,000	標準化補正 0.0	交通 0.0	交通 -1.0
公示価格 174,000 円/㎡				100		[ 105.0 ]	[ 96.0 ]	100	環境 0.0		環境 -4.0	行政 -1.0	行政 -1.0
											画地 0.0	その他 0.0	その他 0.0
(9) 指定基準地の検討	① 指定基準地番号 東村山 (都) -7				②時点修正		③標準化補正	④地域要因の比較	⑤個別的要因の比較	⑥対象基準地の比準価格 (円/㎡)	⑦内訳	街路 0.0	地域要因 0.0
	前年指定基準地の価格 172,000 円/㎡				[ 104.1 ]		100	100	[ 101.0 ]	179,000	標準化補正 0.0	交通 0.0	交通 +1.0
				100		[ 101.0 ]	[ 100.0 ]	100	環境 0.0		環境 -1.0	行政 0.0	行政 0.0
											画地 +1.0	その他 0.0	その他 0.0
(10) 対象基準地の等前年の検討	①-1対象基準地の検討				③変動状況 価格形成要因の		一般的要因 国内経済の回復傾向、低金利政策の継続、堅調な投資意欲等により、不動産市場では地価は上昇傾向となった。 地域要因 既成の住宅地域で、特段の変動要因はない。一般的要因の影響を受け地価は強含みで推移している。 個別的要因 特段の変動要因はない。地域の標準的な画地で、市場競争力は普通である。						
	■継続 <input type="checkbox"/> 新規 前年標準価格 173,000 円/㎡												
	①-2基準地が共通地点(代表標準地等と同一地点)である場合の検討												
	<input type="checkbox"/> 代表標準地 <input type="checkbox"/> 標準地 標準地番号 公示価格 円/㎡												
②変動率 年間 +2.9 % 半年間 %													